

ある看護科教員のアタマの中

11

～看護師の専門性について～

山岸 若菜

はじめに

看護関係の人がSNSを発信しているのを眺めていると「看護師の仕事が雑多すぎる！看護師でないとできない仕事に専念できるようにするべきだ」という主張を目にします。

看護師でないとできない仕事ってなんだろう？

昔読んだ本の中で、看護師の仕事は、皮をむいたら中身がなくなってしまう玉ねぎみたいなものだ、色々やることは多いがどれも特化した知識があるわけではなく、専門職と言われるが、その実専門的なことは何もない。という文章を読んだことがあります。

看護師は専門職と言われることに少し懐疑的だった若かりし自分はとても納得したことを覚えています。

それから〇十年後、私が考える看護師の専門性について書いていきたいと思います。

誰でもできる仕事

SNSの主張を見ていると、医療行為以外の例えばベッド周りの環境を整えることやシーツ交換などが看護師でなくてもできることと考えている人が多いようです。

ドラマや映画でも、できる看護師として描かれるのは、救急の事態に迅速に対応して、医療処置の介助にも卓越した技術を持つ人が多いですね。

かっこいいしわかりやすいから。

私が勤める看護科の学生でも、「ドラマでかっこよかったから入りました。」という子がチラホラいます。

でも、看護の仕事が救命にあるとイメージで看護師を養成する学校に入って、まずしょっぱなに教えられることは実は環境整備とリネン交換なんです。

環境整備にリネン交換て！思ってたんと違う！

と、ギャップを感じる人もおおいんじゃないかな。

そしてそんなこと、看護師じゃなくてもできるやんと思うのも無理はないです。

確かにそうなんです。

ただ「シーツを替える」「ベッド周りを綺麗に整える」だけなら、たぶんホテルのハウスキーパーさんの方がよっぽど綺麗です。

でも、そこが病院で患者さんが寝ているベッドとなると話は変わります。

たとえば、ちょっとしたシーツのしわが寝たきりの人にとっては褥瘡の原因になる、今シーツを替えないといけないベッドに寝ているその人が、どの程度動けない人なのか、どんな皮膚の状況でどんな風にシーツを敷くのが最適なのかを考えないといけません。

ベッド周囲を整えることにしても、そのベッドを使っている患者さんがどの程度動いているのかを把握して、どうしたらコケたり混乱したりしないで安全に過ごせるのかを考えて工夫しないといけないのです。

そしてそれを考えられるのは、医療の知識や人間のとらえ方を勉強して資格を持った看護師だからこそできることなのではないのかなと考えます。

専門性とは

看護の専門性が医療行為だけでは語りきれないのは、看護が本来人の生活を支える仕事だからです。

治療は短い時間に行われる“点”のようなものですが、患者さんが過ごしている多くの時間は日常生活です。その日常が整っていなければ、治療の効果も十分に発揮されません。清潔、休息、食事、排泄などなどが整ってこそ、患者さんは回復に向かえるのです。

患者さんがよりよい環境で一日を送れるよう、生活の基盤を支えることこそが看護の専門性だと考えています。

でも冒頭のSNSでの主張「看護師の仕事が 雑多すぎる！看護師でないとできない仕事に専念できるようにするべきだ」にはどうしたら対処できるのでしょうかね。

看護の専門性を理解した看護師が、この人はこういうところに気を付けてこのようにシーツを整えてほしいと依頼して、そのようにしてくれる看護助手のような人が増えればいいのかなあ。

人が十分にいればそんな意見も出てこないのかもしれませんが、これから少子化がどんどん進んでいくとどうなるのか、また別の機会に考えようと思います。